「エマオで現れる」　　2023 年 12 月 13 日

一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、祝福して裂き、二人にお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は互いに言った。「道々、聖書を説き明かしながら、お話しくださったとき、私たちの心は燃えていたではないか。」すぐさま二人は立って、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、主は本当に復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。（ルカ 24：30～35）

著者ルカは、復活した主イエスが二人の弟子にエマオで現れたと、絵画的に美しく描き、復活の喜びを書いている。ルカ福音書だけに記された固有の記事である。

主イエスが復活した日、二人の弟子（一人はクレオパ）がエルサレムから 60 スタディオン（約 11 ㎞）離れたエマオに向かって歩きながら、エルサレムで起こった出来事について熱心に話し合っていた。二人が話し合っていると、復活した主イエスが近づき、一緒に歩き始めた。二人は、その人が復活した主イエスだとは分からなかった。エマオはエルサレムの西方にある。西に落ちる夕日の光に遮られて見えなかったのではないか。また、復活した主イエスであるとは思いも及ばなかった。主イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と問われた。二人は暗い顔をして立ち止り、弟子の一人のクレオパが、「エルサレムに滞在していながら、ここ数日そこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか」と、エルサレム中で大騒ぎになった主イエスに関して起こった受難と十字架の出来事を知らないのですかと、蔑むような口調で答えた。主イエスは「どんなことですか」と聞くと、二人は答えた。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡し、十字架につけてしまったのです。私たちは、この方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。ところが、仲間の女たちが私たちを驚かせました。女たちは朝早く墓へ行きますと、遺体が見当たらないので戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。それで、仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、女たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」主イエスは言葉と業において、力ある預言者であった。ところが、神殿当局は死刑にするためピラトに引き渡し、十字架につけて殺してしまった。私たちは主イエスにローマからの解放の期待をかけていたが、十字架の死によって、期待は阻まれてしまった。ところが、仲間の女たちが朝早く、主イエスを葬った墓に行ってみると、遺体が見当たらなかったので戻って来た。そして彼女たちは、天使が現れ、「イエスは生きておられる」と告げたと言っていた。仲間の何人かが墓に行ってみると、女たちが言った通り、確かに主イエスの遺体はなく、不思議なことが起こった。

二人の弟子は、主イエスの死によって、ローマからの解放を諦めざるを得ない。また、女たちの主イエスは復活して、生きておられるという話もとても信じられないので、失意の中、論じ合いながら、エマオに向かって歩いていた。彼らは率直に、エルサレムで起こったこと、聞いたことを話した。二人の話を聞かれた主イエスは、彼らの失意と不信を聞

いて、「ああ、愚かで心が鈍く、預言者たちの語ったことのすべてを信じられない者たち、メシアは、これらの苦しみを受けて、栄光に入るはずではなかったか」と言われた。メシアは苦難を受けるが、必ず、栄光を受ける、即ち、復活の命に与るはずである。あなたがたは、預言者たちが語った神の預言を信じることのできないのかと嘆かれた。そして、モーセと預言者から始めて、旧約聖書全体にわたり、メシアについて書いてあることを解き明かされた。二人の弟子は、解き明かしに釘付けされて聞き入った。

主イエスと二人の弟子は、目指すエマオの村に近づいたが、主イエスはなおも先に行こうとされる様子であった。二人は「一緒にお泊りください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いています」と、無理に引き止めた。彼らは、主イエスの聖書の解き明かしに深い感動を覚え、まだ、聞きたいと思って、宿泊を勧めた。主イエスは求めに応じて、一緒に泊まるために、家に入られた。二人は大喜びをしたであろう。

一緒に夕食の席に着いた時、主イエスはパンを取り、祝福して裂き、二人の弟子にお渡しになった。その時、二人の目が開け、この方は主イエスだと分かった。それは、弟子として従っていたガリラヤ時代、主イエスは食事の席ではいつも、パンを裂き、祝福して分け与えてくださった。今、その姿を目の前で見て、主イエスだと直感した。主イエスだと分かった瞬間、主イエスの姿は見えなくなった。主イエスは不信の中にある二人にご自分を現わし、彼らが悟ったので、身を引かれた。しかし、二人の感動は深く、互いに「道々、聖書を解き明かしながら、お話してくださったとき、私たちの心は燃えていたではないか」と言い合った。エマオに向かう途中、モーセから始め、預言者たちの言葉からメシアの到来が語られ、そのメシアは苦難を受けるが、神が復活という栄光を与えてくださることを解き明かされた。その話を聞いている間、二人の心が熱く燃えていた。この感情は、神の人間への愛を知らされたことを喜ぶ高ぶりであった。

二人はすぐに立ち上がり、急いでエルサレムに戻った。この嬉しい知らせを仲間たちに話したい思いに駆られたのである。エルサレムでは、十一人の弟子たちと仲間が集まっていた。彼らも、主イエスは本当に復活して、シモン・ペトロにも現れたと、興奮して話していた。二人の弟子も、エマオに向かって歩いていた時、一人の旅人が加わり、道々、聖書の解き明かしを受けた。その晩、無理に引き留め、泊まっていただいた。夕食の時、パンを取り、祝福して裂き、渡してくださった時、二人の目が開け、ガリラヤで食事を共にした姿の主イエスであることが分かった。主イエスは十字架で死んだけれども、復活し、生きておられると知って、大きな喜びに包まれた。この喜びを伝えるために、急いで戻って来たと報告した。この場は「主は生きておられる」と神への賛美で溢れた。これが、著者ルカが伝える主イエスの復活のメッセージである。